

令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査 今後の教科指導のポイント

小学校国語科

小学校		国語					
		総合	観点別正答率				
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
3年	目標値	71.1	66.3	81.7	57.3	68.6	75.2
	県平均正答率	70.9	66.1	79.5	58.5	67.9	75.1
4年	目標値	71.8	63.8	78.3	55.8	72.5	75.4
	県平均正答率	75.1	65.7	80.4	56.7	77.2	79.0
5年	目標値	69.8	66.9	75.0	61.9	70.3	70.0
	県平均正答率	71.5	71.2	79.8	64.8	71.7	70.7
6年	目標値	67.5	70.0	73.3	68.8	63.4	67.8
	県平均正答率	69.4	73.6	76.2	71.4	61.3	71.9

結果概況

目標値を上回っている項目が多く、おおむね良好な状況である。
学年別にみると、小学校4・5年生で、全ての項目で目標値を上回っている。
観点別にみると「書く能力」が全学年で目標値を上回っている。

課題

学年別にみると、

- 3年生 話の中心に気をつけて聞くこと
 - 4年生 資料の内容を理解して、作成している図鑑に適切な文章を書き加えること
 - 5年生 連用修飾語について理解すること
目的や必要に応じて、登場人物の心情を読み取ること
 - 6年生 目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取ること
文章の内容を的確に読み取ること
- 4年生以上で2段落構成で文章を書くことに課題がある。

改善に向けて

- 語彙指導の改善・充実
 - ・意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やす指導
- 話や文章の内容を理解する指導の改善・充実
 - ・話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりする指導
 - ・自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にする指導
- 考えの形成、記述に関する指導の改善・充実
 - ・自分の考えを明確にし、考えを伝えるために、どのような言葉を用いるか、語や文及び段落の続き方やつながりをどのように表現するか注意して記述する指導

令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査 今後の教科指導のポイント

中学校国語科

中学校		国語					
		総合	観点別正答率				
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1年	目標値	64.7	66.1	68.8	62.1	58.2	67.8
	県 平均正答率	65.7	69.1	67.1	66.9	58.4	68.2
2年	目標値	65.0	71.1	68.6	62.9	60.3	64.6
	県 平均正答率	65.3	74.3	69.6	67.6	58.6	63.9

結果概況

目標値を上回っている項目が多く、おおむね良好な状況である。
学年別にみると、中学校1年生で、「話す・聞く能力」以外で目標値を上回り、2年生では、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」以外で目標値を上回っている。
観点別にみると「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」が全学年で目標値を上回っている。

課題

学年別にみると、

1年生 文章の構成や展開を捉えること、登場人物の心情をとらえること

2年生 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと、登場人物の心情の変化をとらえること

1、2年生で共通して漢字を読むこと書くこと、慣用句、故事成語について理解することに課題がある。

改善に向けて

○漢字の読みと書きに関する指導の充実

・小学校で習った漢字を含め、習った漢字を必要に応じて取り上げて読んだり、文や文章の中で使ったりする指導

○語彙指導の改善・充実

・意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使うことを通して社会生活で使いこなせる語句を増やし、確実に習得する指導

○構造と内容を把握する指導の改善・充実

・段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、更に大きな意味のまとめごと、文章全体における役割をとらえる指導
・登場人物の心情の変化などを、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係、行動や情景描写に注意しながら読み進める指導

令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査 今後の教科指導のポイント

小学校算数科

小学校		算数				
		総合	観点別正答率			
			算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
3年	目標値	69.3	63.6	60.2	68.9	74.4
	県平均正答率	67.8	62.1	55.6	67.6	75.0
4年	目標値	67.7	58.8	61.9	67.6	69.1
	県平均正答率	68.6	62.9	61.2	68.2	71.0
5年	目標値	60.3	45.8	47.7	65.8	62.9
	県平均正答率	58.5	46.7	44.8	64.0	62.0
6年	目標値	72.1	62.5	62.0	77.7	70.2
	県平均正答率	74.0	67.6	63.4	79.8	72.0

結果概況

目標値を上回っている項目が半数以上あり、おおむね良好な状況である。学年別にみると、6年生では、全ての項目で目標値を上回っている。観点別にみると「算数への関心・意欲・態度」「数量や図形についての知識・理解」が3つの学年で目標値を上回っている。

課題

学年別にみると

- 3年生 式に合った文章問題を選んだり、計算の仕方を説明したりすること。
 - 4年生 文章問題を解くために正しく立式したり、計算のきまりから式に合った文章問題を選んだりすること。
 - 5年生 文章問題に合った式を選んだり、単位量当たりの大きさの問題で理由を説明したりすること。
 - 6年生 数の大小を判断したり、速さの問題の単位換算を行ったりすること。
- ※全学年で判断し立式したり、説明したりすることに課題がある。

改善に向けて

- 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を明確にすること。（指導計画作成の充実）
 - ・学習構想案の【大切にしていきたい3項目】を明らかにした授業構成の工夫
- 考えを表現し伝え合うなどの学習活動の充実（数学的活動のより一層の充実）。
 - ・思考力、判断力、表現力等を育成するため、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする活動の充実
- 継続的な指導や学年間の円滑な接続を図ること。（学び直しの機会の充実）
 - ・学年間の指導内容を円滑に接続させるための、適切な反復による学習指導の充実（授業及び授業以外の機会での指導の充実）

令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査 今後の教科指導のポイント

中学校数学科

中学校		数学				
		総合	観点別正答率			
			数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
1年	目標値	60.4	53.2	50.7	59.6	63.8
	県平均正答率	60.2	53.8	52.1	59.6	63.0
2年	目標値	57.1	45.5	42.5	60.6	58.6
	県平均正答率	54.8	40.3	38.7	58.0	57.8

結果概況

目標値を下回っている項目が半数以上あり、今後、改善が必要である。
学年別にみると、2年生では、全ての項目で目標値を下回っている。
観点別にみると「数量や図形についての知識・理解」が全学年で目標値を下回っている。
2年生では、「数学への関心・意欲・態度」や「数学的な見方や考え方」で大きく下回っている。

課題

学年別にみると

1年生 比例関係にある式から表を選んだり、 X と Y の値から比例の式を求めたりすること。

2年生 Y が X の一次関数である式を立式したり、事柄が成り立つ理由を文字式を使って説明したりすること。

※全学年で共通して、関数関係にある二つの数量を式に表すことに課題がある。

改善に向けて

○単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を明確にすること。（指導計画作成の充実）

・学習構想案の【大切にしていきたい3項目】を明らかにした授業構成の工夫

○数量に関わる意味や概念を確実に理解できるようにすること。（数学的活動のより一層の充実）

・言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする活動の充実

○生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定すること。

・既習事項を取り上げる際には、小学校での学習内容を十分に把握し、小中の円滑な接続を図ることが大切

令和元年度（2019年度）熊本県学力・学習状況調査 今後の教科指導のポイント

中学校外国語科

中学校		英語				
		総合	観点別正答率			
			コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能 力	外国語理解の能 力	言語や文化につ いての知識・理 解
1年	目標値	57.6	55.7	47.8	57.5	63.8
	県平均正答率	53.2	55.5	44.0	55.4	54.6
2年	目標値	54.0	54.3	40.9	58.9	53.3
	県平均正答率	49.8	49.3	30.7	56.5	50.1

結果概況

両学年において全ての項目で目標値を下回っており、大変厳しい状況である。観点別にみると1年の「知識・理解」、2年の「表現の能力」が目標値を大きく下回っている。

課題

学年別にみると

- 1年生 主語の単数・複数に応じて、適切なbe動詞を用いること
読み取った内容を踏まえて、適切な英語を書いて対話文を完成させること
対話の流れに合った英文を書くこと
- 2年生 読み取った内容を踏まえて、メールの中の適切な語を書くこと
対話の流れに合った英文を書くこと
まとまった内容で説明する文を書くこと

に課題がある。

改善に向けて

- 主語に応じて適切な動詞を用いること、適切な代名詞を用いることなど、基礎的・基本的事項について、言語活動と指導の繰り返しを通して身に付けさせること。
- 英文を読んで内容を踏まえて書く、対話を読んで流れに合った英文を書くなど、統合的な言語活動を行うこと。
- まとまった内容の英文を書く活動を日常的に行うこと。